

(別添1)

No.	
策定年月	令和3年7月
見直し年月	

麦・大豆生産性向上計画

茨城県

1. 麦・大豆の生産性向上に向けた方針

(1) 麦・大豆の生産性向上・産地強化に向けた方針

茨城県は、全耕地面積に対して主食米の作付割合が約4割を占める水田地域であるが、近年、主食用米の国内需要が減少していることから、稲作農家の経営安定のために、需要に応じた米の生産を推進している。

具体的には、米以外の畑作物の導入が困難な排水不良田が多いため、排水対策やブロックローテーションなどを推進して麦・大豆等の畑作物の定着を図るとともに、飼料用米を中心とした新規需要米等による転作を進めてきたところである。

土地利用型作物である麦・大豆は、本県の水田輪作体系における重要な戦略作物であるが、連作や湿害等による収量の低下、品質のばらつき等が問題になっており、近年は面積が減少傾向にある。

収量・品質の向上を図るため、適地適作及び排水対策の基本栽培技術を徹底するなど、県・市町村・関係団体が一丸となって産地支援を行うとともに、実需者ニーズに的確に対応するため需要に応じた品種の生産を推進する。

(2) 県で推進する団地の基準等

茨城県においては、作業効率等を考慮し、平地で耕作条件の良い地域における「団地」は、4ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地とする。ただし、中山間地域（農水省統計資料「農業地域類型一覧」における第1次分類3及び4の地域）については、農地の集約に制限があることから、麦は1.3ha以上、大豆は2ha以上の場合を団地とする。

なお、平地で耕作条件の良い地域において、計画策定年に、すでに4haの団地化を達成しており、かつ、今後の拡大面積を既団地に組み込むのが不可能な場合は、既団地とは別に、新たに1haの団地化に取り組むこととする。

あわせて、中山間地域において、計画策定年に、すでに団地化を達成しており（麦1.3ha、大豆2ha）、かつ、今後の拡大面積を既団地に組み込むのが不可能な場合は、既団地（麦1.3ha、大豆2ha）とは別に、新たに0.5haの団地化に取り組むこととする。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

●麦について

・本県の小麦は、主に製粉用として販売されているが、実需からの要望を生産量が満たしておらず、増産を図る必要がある。

・六条大麦及び二条大麦は、主に麦茶用として販売されているが、年によって需要量の変動が大きいいため、動向を注視しつつ需要に応じた生産を図る必要がある。

・はだか麦は、全て精麦用として販売されているが、近年生産が需要量に追いつきつつある。

●大豆について

・納豆小粒は単収の低下により需要量を満たすことができなくなっており、増産が必要となっている。

※ 麦については、直近の民間流通連絡協議会における販売予定数量と購入希望数量がわかる資料を添付すること。

(2) 生産における現状と課題

●麦について

・作付面積は近年減少傾向にあり、担い手への集約化が進んでいる。

・単収は、その年の気象条件により増減はあるものの横ばいで推移しており、産地において排水対策や施肥改善等の新たな取り組みが求められる。

●大豆について

・連作や湿害等による品質・収量の低下が問題となっている。

(3)実績

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
小麦	さとのそら	(3,136) 4,102	(3,209) 4,137	(3,187) 4,023	310	338	311	(9,721) 12,716	(10,845) 13,983	(9,919) 12,521
	きぬの波	(322) 429	(279) 371	(339) 445	375	489	346	(1,207) 1,609	(1,364) 1,814	(1,172) 1,540
	ゆめかおり	(61) 81	(62) 83	(107) 141	307	359	222	(187) 249	(224) 298	(238) 313
大麦	カシマムギ	(408) 761	(367) 673	(272) 498	169	175	174	(689) 1,286	(642) 1,178	(473) 867
	カシマゴール	(633) 1,181	(631) 1,157	(564) 1,032	295	309	298	(1,868) 3,484	(1,950) 3,575	(1,682) 3,077
	カモゴールデン	(691) 1,241	(675) 1,210	(680) 1,160	249	294	247	(1,721) 3,090	(1,985) 3,557	(1,680) 2,865
はだか麦	キラリモチ	(70) 125	(128) 229	(171) 291	261	395	258	(182) 326	(505) 905	(440) 751
作物計		(5,320) 7,920	(5,350) 7,860	(5,320) 7,590	287	322	289	(15,574) 22,760	(17,513) 25,310	(15,605) 21,934

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
大豆	(一括)	(2,610) 3,470	(2,570) 3,450	(2,440) 3,350	(110) 110	(96) 96	(115) 115	(2,873) 3,820	(2,466) 3,310	(2,804) 3,850
作物計		(2,610) 3,470	(2,570) 3,450	(2,440) 3,350	(110) 110	(96) 96	(115) 115	(2,873) 3,820	(2,466) 3,310	(2,804) 3,850

●麦について

※ 品種ごとの作付面積は、民麦資料の数値から割合を求め、合計値が国の作物統計の数値と合うように算出した。

※ 品種ごとの田の面積は、各麦種における全体の面積に占める田の面積の割合を求め、品種ごとの作付面積とかけあわせて算出した。

※ 単収は、民麦資料の製品単収を参照した。さとのそら及びカシマゴールは、令和2年産の単収が平年と比較して低いことから、民麦資料掲載の実単収の値を7中5で算出している。

※ 生産量は、上記の作付面積と単収をかけあわせて算出したため、作物統計の数値と一致しない場合がある。

●大豆について

※ 作付面積及び生産量は、国の作物統計を参照した。

※ 田における生産量は、国の統計から全体の面積に占める田の面積の割合を求め、全体の生産量とかけあわせて算出した。

※ 単収は、上記のとおり算出した作付面積及び生産量の数値から算出した。

様式記載の注意事項

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

3. 課題解決に向けた取組方針・計画

(1)取組方針

●麦について

①需要に応じた生産と販売の実現

供給が不足している小麦と六条大麦について、二条大麦からの作付転換及び排水対策等の取組により増産を図る。

②団地化の推進

農地中間管理事業等による農地集積を進めつつ、団地化に向けた地域の話し合いを推進する。

●大豆について

①需要に応じた生産と販売の実現

需要の高い納豆小粒や里のほほえみの収量増加を図るため、栽培指導や湿害対策技術の実証・普及に取り組み、県産大豆の安定供給を進める。

②団地化の推進

農地中間管理事業等による農地集積を進めつつ、団地化に向けた地域の話し合いを推進する。

※ ①需要に応じた生産と販売の実現、②団地化の推進について必ず記載する。

3. 課題解決に向けた取組方針・計画

(2) 計画

① 生産量

作物名	品種名	令和2年産(現状)			令和9年産(目標)			備考
		面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	
小麦	さとのそら	(3,187) 4,023	311	(9,919) 12,521	(3,198) 4,050	314	(10,056) 12,718	単収の現状値は7中5で算出
	きぬの波	(339) 445	346	(1,172) 1,540	(339) 445	346	(1,172) 1,540	
	ゆめかおり	(107) 141	222	(238) 313	(107) 141	222	(238) 313	
大麦	カシマムギ	(272) 498	174	(473) 867	(272) 498	174	(473) 867	
	カシマゴール	(564) 1,032	298	(1,682) 3,077	(574) 1,049	298	(1,711) 3,125	単収の現状値は7中5で算出
	ミカモゴールデン	(680) 1,160	247	(1,680) 2,865	(680) 1,145	247	(1,681) 2,825	
はだか麦	キラリモチ	(171) 291	258	(440) 751	(171) 291	258	(440) 751	
作物計		(5,320) 7,590	289	(15,605) 21,934	(5,341) 7,619	291	(15,771) 22,140	

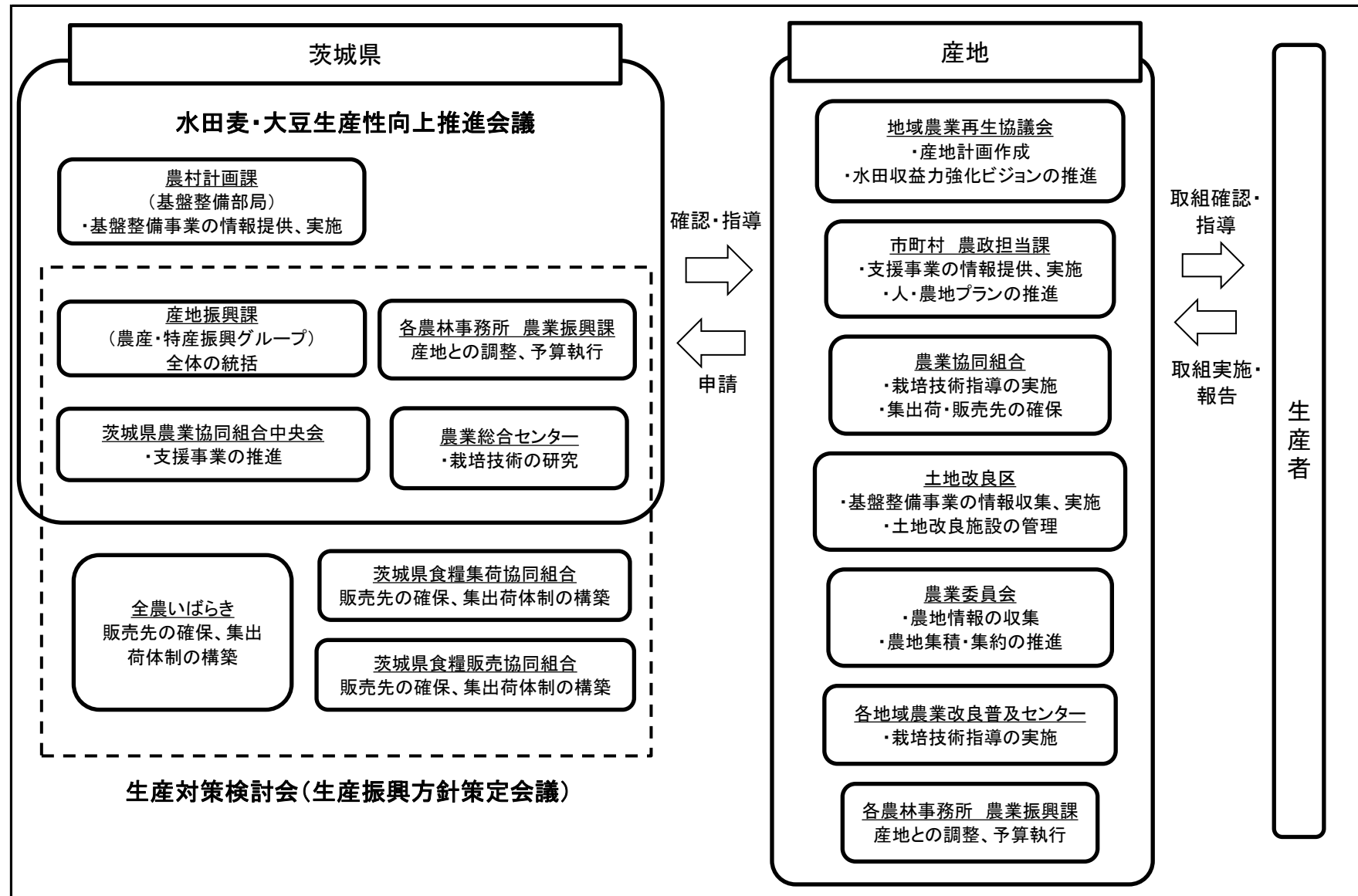
作物名	品種名	令和2年産(現状)			令和8年産(目標)			備考
		面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	
大豆	(一括)	(2,440) 3,350	(115) 115	(2,804) 3,850	(2,447) 3,357	(120) 120	(2,936) 4,028	
作物計		(2,440) 3,350	(115) 115	(2,804) 3,850	(2,447) 3,357	(120) 120	(2,936) 4,028	

※ 各事業実施主体の産地計画に記載の生産量及び面積の目標値を参照し、増分を足し合わせて県全体の目標値とした。

様式記載の注意事項

- ※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。
- ※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。
- ※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)
- ※ 現状値は、計画策定時に数値が把握できる直近の年産を記載する。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。
- ※ 目標年は計画策定年から5年後に生産(麦においては播種)する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。
- ※ 直近年が災害等により直近年の記載が適当でない場合は、現状値を7中5とすることが出来る。その場合備考欄に明記すること。
- ※ 作付面積、生産量以外の目標を設ける場合は適宜行を追加して記載すること。

4. 推進体制及び役割



5. 他計画・プラン等との連携

	連携する計画・プラン等名称	作成年	備考
1	茨城県水田収益力強化ビジョン	令和3年	
2			
3			
具体的連携内容 作物ごとの取組方針について連携を図る。			

6. 活用予定の事業

関連	事業名	備考
	水田麦・大豆産地生産性向上事業	団地化推進のための会議の開催や、営農技術の導入、播種機やコンバイン等の機械の導入

※県段階で想定している事業名について、記載すること。

※別紙第6の事業に該当する場合は、「○」を記載すること。その他の事業を活用する場合は「-」。

※備考欄には、活用する時期や具体的な取組内容を記載すること。

7. 麦・大豆産地生産性向上計画の作成主体

No	作成主体名	関係市町村	活用予定の事業
1	水戸市農業再生協議会	水戸市	水田麦・大豆産地生産性向上事業
2	下妻市農業再生協議会	下妻市	水田麦・大豆産地生産性向上事業
3	五霞町農業再生協議会	五霞町	水田麦・大豆産地生産性向上事業
4	桜川市農業再生協議会	桜川市	水田麦・大豆産地生産性向上事業

※ 各主体が作成した「麦・大豆産地生産性向上計画」を添付すること。